

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

①夏季休業中における宇都宮城主戸田家墓所清掃活動

本校の学区には宇都宮城主戸田家の墓所がある。夏季休業中に、参加者を募り、地域の貴重な歴史遺産である墓所の清掃活動を行っている。本校の生徒はボランティア活動に積極的であり、参加意欲も高い。学校の近くには宇都宮城跡地の城址公園がある。年間を通して、様々な催し物が開かれており、多くの生徒が日常的に郷土の歴史に親しんでいる。将来における持続可能な社会の形成を考える上で、その担い手である生徒たちが過去の歴史、地域の環境保全のあり方について学ぶことはとても重要なことであると考えられる。この活動を学校の教育活動の実践として位置づけることで、生まれ育った地域についての関心が高まり、郷土を愛する心の育成が期待できると考えている。

活動に参加した生徒は充実感や達成感を感じている。次年度以降も継続して活動を推進し、地域の環境を守る実践意欲や郷土史についての学習を日常の教育活動に位置づけるなどの取り組みを行い、将来社会への展望を生徒たちに考えさせていきたい。

②環境教育クリーンアップキャンペーン（地域清掃活動）

11月28日(土)に中学校区の小学校や地域の道路の清掃活動を実施した。本活動のねらいは、地域の美化活動を行うことによって、地域社会に貢献しようとする態度を育て、勤労の精神を養うことである。生徒たちはそれぞれの出身小学校に集まって小学校近辺の清掃活動に取り組むことになる。本活動は、宇都宮市立一条中学校区内小学校と連携した取り組みとして実施しており（宇都宮市立西小学校、宇都宮市立西原小学校、宇都宮市立宮の原小学校）、PTAや地域協議会の方々の協力を得て活動している。生徒にとっても、卒業した小学校を訪れ、小学生やお世話になった小学校の先生方、保護者や地域の方々とともに活動することで地域社会の一員としての自覚をもつことができる。

主な活動内容は校庭の落ち葉掃きや用水路の清掃などが中心である。西小学校においては近くの商店街通りまで移動し、道路に付着したガム取りを行っている。今年度は道路工事の関係でガム取りを実施する場所は限られていたが、生徒たちは進んで汚れている箇所を見つけ、熱心に活動していた。落ち葉掃きにおいては、竹箒や熊手、テミなどの清掃道具を使用し、多くの落ち葉を集めることができた。集めた落ち葉はゴミ袋に入れ、指定の回収場所までリヤカーや一輪車を使いながら協力して運ぶことができていた。予定していた場所の活動が一段落すると、すぐさま別の清掃場所へ行き、手伝う生徒が多く見られた。生徒の主体性をのばす活動としての効果を感じることができた。

活動後の閉会式では、小学生、中学生ともに活動の感想を発表する機会を設けた。小学生からは学校や地域をきれいにするのができた喜びと中学生への感謝の気持ちが言葉として表れていた。中学生からは、自分たちの生活する地域を多くの人々と協力して整備することができた達成感と地域社会で暮らす一員としての自覚ある発言を聞くことができた。継続事業として、毎年活動を実施することで小学生の児童が中学校へと進学し、再び母校に戻って活動に参加する体制の構築が、持続可能な地域社会の形成につながると考えられる。

③平和学習

本校では、平和学習に全校体制で取り組んでいる。宇都宮市は、昭和20年7月に本土空襲を受け、大きな被害を被った。本校は市内の中心に位置しており、空襲の被害にあった地域に立地している。しかし、戦後70周年を迎え、当時の様子を知る方々も高齢になり、将来世代に伝えていく機会が減ってきている。戦争の惨禍をくり返さないためにも、生徒たちに戦争の悲惨さを知ってもらい、二度と戦争を起こさないという強い自覚をもたせるためにも平和学習を推進していく必要がある。そこで、平和学習として全校生徒を対象とした平和に関する講話と第2学年の生徒を対象に県内の被爆体験者による語り部講演会を実施した。

全校生徒を対象とした講話は、宇都宮空襲の実情と戦後復興の歴史について学び、郷土史と結びつけた平和学習を推進することをねらいとしている。市役所の職員を招き、全校朝会の時間を活用して実施した。生徒は空襲の実情を数字や当時の市街地の地図、写真を通して学ぶことができた。被害の様子だけでなく、戦後復興の様子を知ることでもでき、平和を希求する人々の切実な願いや、困難から立ち上がる人々の姿を知ることによって現在の平和の尊さ、築き上げてきた平和の重みを感じることができる。

第2学年の生徒を対象にした語り部講演会は、中学生が広島の実態と戦争の悲惨さを認識し、平和の大切さを理解することをねらいとしている。広島や長崎での原子爆弾による被害は、書籍や映像資料を通じて知る機会はあるが、当時を知る人物からの話を聞く機会にはほとんど恵まれていない。語り部の方の話は、原爆被害の様子を具体的に知る貴重な機会である。今回の講演会後に、生徒に感想を記入させた。多くの生徒が平和の尊さや戦争の悲惨さについて真剣に考えたことを文章にまとめており、本活動のねらいが十分に達成されたことが読み取れた。

④防災訓練活動

本校はESD教育の柱の一つとして、地域ぐるみの防災教育に力を入れている。宇都宮市の消防団第2分団、第4分団などの協力をいただき、防災や生命尊重の意識を高める活動を、教育課程に位置づけて実践している。

主な活動としては、地震や火災を想定した避難訓練を年に2回実施している。事前指導として、自然災害に関するDVDを視聴し、災害に関する基本的な知識を確認する時間を設けている。自然災害は地震や雷、竜巻、集中豪雨といった近年注目を集めている自然災害などについても学習する機会を設けさせている。家庭科の授業では、いざというときに役立つ防災バッグづくりを行い、家庭の防災用品の有無や管理について生徒自身に主体的に考えさせている。委員会活動においても、BFC（青少年消防クラブ）の委員会を設け、生徒に避難訓練や防災訓練活動の司会進行を任せるなど、主体的な活動となるように工夫しており、学校教育全体で活動に取り組んでいる。

2回目の避難訓練の際には、消防署や消防団、地域の方々に協力をいただき、様々な防災、救急活動を体験する活動に取り組んでいる。具体的には、消火訓練としての消火器の使用やバケツリレーの体験、煙道体験、起震車への試乗体験などを行った。人命救助の観点からは、AEDの使用訓練の講習を受け、実際に訓練用の機材を使っただけの訓練活動を実施した。消防署の方々には、

災害時に建物に取り残された場面を想定しての救助訓練の様子を披露していただいた。BFC委員会所属の生徒も一部活動に加わり、救助現場の一場面を想定した活動ができた。

活動終了後には、地域の方々の協力をいただき、炊き出しを体験する機会を設けた。生徒も炊き出しに参加したり、食事を受け取ったりといった活動を体験し、災害にあった状況を想定することができたように感じられる。いかにして災害被害を抑える工夫を日々の生活の中で考えていくのかが課題であるが、活動を通して、防災への意識が高まった。

⑤一条地域学校園あいさつ運動

宇都宮市では小学校と中学校が連携して様々な教育活動に取り組む、地域学校園を組織している。本学校園では、児童生徒が地域社会の一員であることの自覚をもち、活動を通して他者と積極的に関わろうとする人権意識を高めることをねらいとして、あいさつ運動に定期的に取り組んでいる。生徒会執行部や学級委員、生活委員会、各部活動の部長が中心となり、毎月はじめに活動を行っている。小学校とも連携し、年に数回、出身小学校に出向いて小学生に対してのあいさつを呼びかけている。教職員だけではなく、保護者や地域の方も活動の主旨に賛同していただき、地域全体で協力体制を築いて、活動を推進している。今年度は、より多くの方に活動を知っていただくために、啓発用ののぼり旗を作成した。

生徒会が実施したアンケートの結果では、「あいさつ運動によってすがすがしい態度で一日を過ごす気持ちになれた」と回答した生徒や、あいさつを返してもらい、うれしくなった」と回答した生徒が多数いた。人間関係を構築する上でもっとも大切なコミュニケーション能力の基本があいさつである。交流関係にある人に対してだけでなく、初対面の人に対してであっても積極的にあいさつのできる生徒を育てていくことが望ましい。地域が一丸となって活動を支援することで、生徒の中に、地域社会への帰属感が芽生え、より多くの人との関わりの中で生活しているという意識が育まれていくと考えている。また、出身小学校に出向くことで、小学校と中学校の連携を子どもたち自身も感じることができ、小学校から中学校へ進学する際の不安感などが減少すると考えられる。まだまだ、改善の余地があるが、地域社会と一体となる取り組みの一つとして、来年度も推進していきたいと考えている。

⑥命に関する講話（人権教育推進活動）

生徒の人権意識を高める教育活動の一環として、命に関する講話を開催した。交通安全教室と関連づけての活動となった。交通安全教室では、スタント業者に交通事故の再現をしていただき、事故現場の様子、被害の大きさなどについて紹介していただいた。本校は、市の中心に位置していることもあり、通学手段は徒歩が中心である。大きな通りが多く、昼夜を問わず交通量が多い。そのため、突然大きな事故に巻き込まれる危険性も高い。本活動では、そのような交通事故を未然に防ぎ、安心して生活するためにとるべき行動や、交通ルールを遵守することの重要さに気付かせることをねらいとした。実際にスタントマンの車に同乗し、自転車との接触事故の様子を確認する活動や、自転車の安全な乗り方について確認する活動を通して、交通への意識が高まったように思われる。

命に関する講話では、交通事故の被害に遭われた遺族の方に講演を依頼し、失われた命の尊さや、残された遺族の悲しみ、事故を起こしてしまった加害者への感情などについて話をいただいた。直前まで元気な姿で接していた家族や友人が帰らぬ人となるという交通事故の悲惨さにどの生徒も神妙な面持ちで話を聞いていた。そして、その多くが加害者側の不注意や交通ルールを遵守しなかったことが原因であるという事実には驚く一面もあった。交通安全教室での事故の衝撃と、実際に被害に遭われた方の話を聞くことにより、生徒の人権意識が高まっていったのではないかと思う。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 土曜授業 ）